

週刊 **日本医事新報**

No. 4695
2014/4/19

4月3週号

JAPAN MEDICAL JOURNAL

p19-42 今週の学術論文

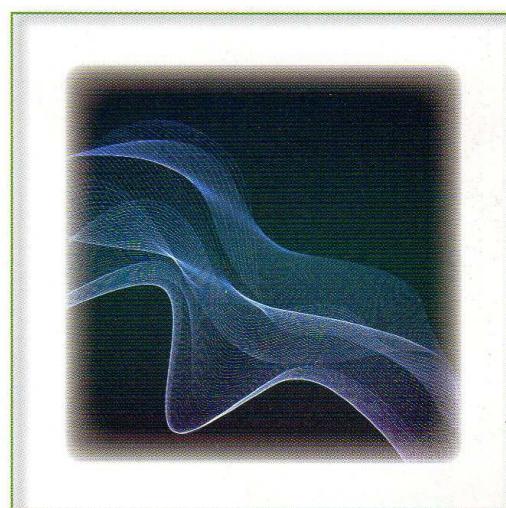
- プライマリケアにおけるHBVキャリアへの対応(田中榮司)
- 群発頭痛(TACs)診療の最近の動向(島津智一)
- 一般診療科におけるうつ病診療(河野敬明)
- 難治性骨折治療の進歩(新倉隆宏ほか)

p1 卷頭

- 外来診断学: 繰り返す関節炎で受診した24歳の女性(生坂政臣ほか)
- プラタナス: インターネット依存疾患の概念確立を(樋口 進)

p8 NEWS

- 帝王切開の大幅引下げで波紋 ● 日医地域医療連絡協議会 他
- OPINION: 深層を読む・真相を解く(二木 立)



p43 学術連載

- 今日読んで、明日からできる診断推論② 発熱(横江正道)
- その場の1分、その日の5分(名郷直樹)
- 一週一話: 薬剤吸着徐放性ソフトコンタクトレンズの有用性
- 差分解説: Hp除菌による胃癌発症リスクの低下 他8件

p62 質疑応答

- Pro↔Pro: 真性赤血球増加症に合併した肢端紅痛症 他1件
- 臨床一般: レストレスレッグス症候群の特徴と治療 他2件
- 法律・雑件: 犯罪行為の通報

p70 エッセイ・読み物・各種情報

- 小説「群星光芒」 ● ええ加減でいきまっせ! ● 本の情報館
- 感染症発生動向調査 ● こだわりクリニック探訪
- 私の一曲(堀口祐爾) ● 人(福井裕輝) ● Information
- 読者サロン ● 漫画「がんばれ! 猫山先生」

p83 医師求人/医院開業物件/人材紹介/求縁情報

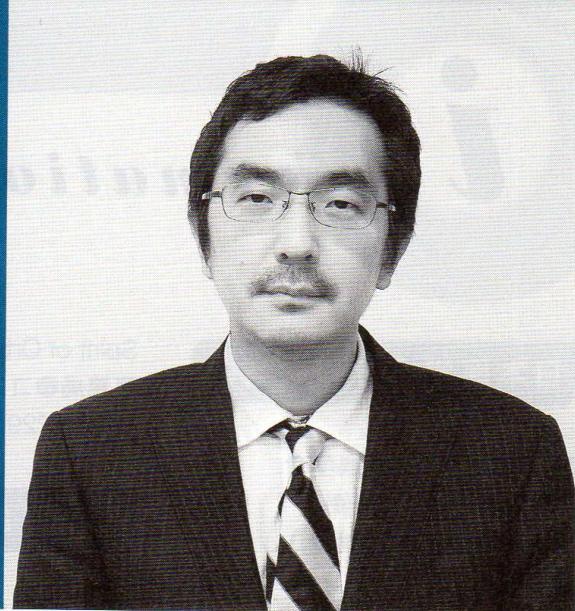


福井裕輝さん

Fukui Hiroki

性障害専門医療センター代表理事

1969年米国生まれ。92年京大工学部、99年同大医学部を卒業。公立小浜病院、京都医療少年院、国立精神・神経医療研究センター等を経て2010年性障害専門医療センター代表理事、13年男女問題解決支援センター代表理事。



「加害者の治療なくして真の被害者救済はなし得ない」

小さな子どもに対する性犯罪や、年々増加傾向にあるストーカー被害。警察の対応に批判が集まりがちなこうした事件の再発防止に、「加害者治療」の視点から取り組む。「加害者を治療しない限り、被害者が救われることはない」というのが、福井さんの信念だ。

福井県小浜市の公立小浜病院での勤務医時代に、ある性犯罪被害者に出会ったことが今日の活動の原点になった。その少女は、父親からの性的虐待で解離性同一性障害を発症。父親を問いただしたが、「娘に何をしようと勝手」と一蹴され、問題解決には至らなかつた。父親に虐待の認識はなく、この出来事を通じて「加害者治療」の必要性を痛感したという。

その後、国立精神・神経医療研究センターなどへの勤務を経て、2010年、日本唯一の性

犯罪加害者治療専門機関である、「NPO法人・性障害専門医療センター(SOMEc)」を設立。2013年には、ストーカー被害の増加や警察からの要請を受け、加害者の治療に特化した、「一般社団法人・男女問題解決支援センター(PSSC)」を設立した。治療の内容はいずれも、思考のゆがみを正す認知行動療法が中心だが、性犯罪加害者に対しては、ホルモン異常による性的衝動を抑制するためのホルモン療法も実施。再犯防止に貢献している。

加害者治療に対しては、「被害者救済こそ優先されるべき」との批判も多い。加害者への監視の目を強めるべきという声もあるが、加害者の心の問題を解決しなければ、再発防止策としては不十分と、福井さんは指摘する。

「例えばストーカーの場合、重大な犯罪が起きる前に危険人物として逮捕・起訴し、実刑判決が出たとしても、たかだか懲役1年。その間に自然に治ることはなく、逆に恨みを募らせるだけなんです」

警察庁が今年4月からスタートさせた、ストーカー加害者治療のモデル事業では、PSSCが治療機関に指定された。「スーパーバイザー制や認定カウンセラー制といったシステムを確立して、加害者治療を全国に広めることを次のステップとして考えています」と福井さん。その情熱は、とどまるところを知らない。



警察大学校で講演。2013年には警察庁の依頼で「ストーカー・DV加害者の危険度判定プログラム」を開発